

\* 今号は、「①アスベスト京都の会の第12回総会、②最近の働くもののいのちと健康をめぐる情勢のザッピング、③今月のお勧めの4冊」です。

## I アスベスト被害の根絶をめざす京都の会（アスベスト京都の会）第12回総会

10月7日の夜、ラポール京都（京都労働者総合会館）の会議室で、いの健京都センターも参加している「アスベスト被害の根絶をめざす京都の会」（略称：「アスベスト京都の会」）の第12回総会が開催されました。参加者は、会場に13人、Zoomで7人、合計20人でした。

**開会あいさつ**を行ったアスベスト京都の会の会長をされている石原一彦立命館大学政策科学部教授は、『謝れ、償え、無くせ！』をスローガンとして取り組んできた建設アスベスト訴訟は、やっと建材メーカーが和解に応じる姿勢を見せ、山場を迎えている。『無くせ』のとりくみを引き続き行っていく必要がある。アスベストは厄介な代物であり、解体・改修の現場だけに任せておいてはダメで、行政の姿勢を変えさせることが必要だ。新たなアスベスト被害を起こさせないために、『無くす』まで引き続きがんばって行こう！』と呼びかけました。



総会に先がけて、**2つの30分講演**が行われました。一つ目は、**建設アスベスト訴訟全国連絡会の清水謙一事務局長**の「**建設アスベスト訴訟闘争の到達と展望**」でした。清水さんは、まず「全国に広がる『和解』の概要」を説明し、特に「被告建材メーカーとの和解の意義」を強調しました。そして、引き続き「**屋外、改修解体、違法期間外の原告の救済に全力をあげる**」こと、「**建設アスベスト給付金法の改正**」を実現することを呼びかけました。最後に、「**被告メーカーを和解に追い込んだ力を確信に、全ての被害者救済と建設アスベストと建設アスベスト給付金法改正へ更なる前進を！**」と力強く訴えました。二つ目は、**大阪アスベスト対策センターの伊藤泰司幹事**で、「**アスベスト飛散・ばく露防止に向けて**」をテーマに講演しました。伊藤さんは、9月に韓国のソウルで開催された「日韓アスベストセミナー」に参加し、「韓国調査で考えたこと」を報告。「韓国の屋根材の補助制度の調査で分かってきたことは、日本より厳格な工事が、日本より割安で行われていること」、「日本では、クボタ、積水化学、パナソニックなどの大手の屋根材・外装材メーカーに忖度そんたくしたかのような判決で被害がなくなならないこと」、「『アスベストをなくす』、『被害をなくす』目的に沿って仕事をする韓国の行政と、メーカーに忖度するゆがめられた日本の行政。韓国はコストもかけている」と述べ、「アスベストをなくすたかいは、この日本の行政のゆがみを正すたかいだ」と強調しました。



屋外作業者とメーカー  
建設業の屋外作業者の健康に対するメーカーの責任を問う「無くせ！」運動を主導する清水謙一事務局長の講演は、『謝れ、償え、無くせ！』をスローガンとして取り組んできた建設アスベスト訴訟は、やっと建材メーカーが和解に応じる姿勢を見せ、山場を迎えている。『無くせ』のとりくみを引き続き行っていく必要がある。アスベストは厄介な代物であり、解体・改修の現場だけに任せておいてはダメで、行政の姿勢を変えさせることが必要だ。新たなアスベスト被害を起こさせないために、『無くす』まで引き続きがんばって行こう！』と呼びかけました。



建設アスベスト訴訟闘争の到達と展望  
清水さんは、まず「全国に広がる『和解』の概要」を説明し、特に「被告建材メーカーとの和解の意義」を強調しました。そして、引き続き「**屋外、改修解体、違法期間外の原告の救済に全力をあげる**」こと、「**建設アスベスト給付金法の改正**」を実現することを呼びかけました。最後に、「**被告メーカーを和解に追い込んだ力を確信に、全ての被害者救済と建設アスベストと建設アスベスト給付金法改正へ更なる前進を！**」と力強く訴えました。二つ目は、**大阪アスベスト対策センターの伊藤泰司幹事**で、「**アスベスト飛散・ばく露防止に向けて**」をテーマに講演しました。伊藤さんは、9月に韓国のソウルで開催された「日韓アスベストセミナー」に参加し、「韓国調査で考えたこと」を報告。「韓国の屋根材の補助制度の調査で分かってきたことは、日本より厳格な工事が、日本より割安で行われていること」、「日本では、クボタ、積水化学、パナソニックなどの大手の屋根材・外装材メーカーに忖度そんたくしたかのような判決で被害がなくなならないこと」、「『アスベストをなくす』、『被害をなくす』目的に沿って仕事をする韓国の行政と、メーカーに忖度するゆがめられた日本の行政。韓国はコストもかけている」と述べ、「アスベストをなくすたかいは、この日本の行政のゆがみを正すたかいだ」と強調しました。



**議案の提案**は、アスベスト京都の会の事務局長をしている**京建労の伊東純平常駐執行委員**が行いました。伊東さんは、2025年度の運動方針として、①**建設アスベスト訴訟・対ユニチカ訴訟闘争への支援**、②**全産業におけるアスベスト被害の掘り起こし**、③**アスベスト飛散・ばく露防止対策**などにとりくんでいくことを提案しました。**討論**では、①**京都職対連の芝井公事務局長**が「元ユニチカ労働者の被害救済を求める取り組み」、②**京建労の長信也書記**が「建設アスベスト京都訴訟の現状」と「労災認定闘争、被害救済制度の拡充、ばく露防止対策」、③**京都民医連の宮村真弘常駐理事**が「アスベスト対策委員会を定期開催して、学習会を開催し、アスベスト検診や2次CTの所見の件数のアンケート調査を実施した経験」などの報告が行われました。

最後に、全議案を満場一致の拍手で採択し、京都職対連の新田昌之会長の**閉会あいさつ**で終了しました。

## II 最近の働くもののいのちと健康をめぐる内外情勢のザッピング

### 1 ガザ停戦合意、人質解放

10月8日、イスラエルとハマスは、トランプ米大統領が発表した計画の「第1段階」(＝ハマスが拘束している人質の全員解放とイスラエル軍のガザの一部地域からの撤退など)で合意したと発表。13日、ハマスは生存している20人のイスラエル人の人質を解放しました。



10月7日、イスラエルがガザへのジェノサイド攻撃を始めてから2年となりました。ガザの保健当局によれば、病院で確認された死者は少なくとも6万7千人以上、行方不明者は9千5百人以上、負傷者は16万9千人をこえています。イスラエルが人道支援トラックのガザ入りを妨害したため、少なくとも460人が餓死し、子ども65万人、慢性疾患症患者10万7千人、妊産婦10万7千人が命の危機に陥っています。住宅も41万8千棟以上全壊・居住不能となり、社会・経済・生活の基盤が全面的に破壊されました。

### 2 米サンダース議員が報告書「AIの恩恵は全ての人に！」



10月6日、米民主党進歩派のサンダース上院議員は、米大企業がAI技術で人員削減(＝約1億人の米労働者が職を失う!)を進めようとしていると警鐘乱打し、「巨大IT企業の貪欲さに立ち向かい、AIのもたらす未来は全ての人々が恩恵を受けるものにしなければならない」と訴える報告書を発表しました。

### 3 “ティッピングポイント”(気候回復不能ポイント)に「予想より早く近づく！」

10月13日、11月にブラジルでCOP30(国連気候変動枠組み条約第30回締結国会議)が開かれるのを前に、世界の160人の研究者が執筆した「グローバル・ティッピングポイント報告書」が発表され、「気候変動の影響で、地球システムに後戻りができない変化をもたらされる『ティッピングポイント』が予想より早く訪れている」と警告しました。それによれば、①現在でもサンゴ礁の死滅がほぼ回復不能なペースで進んでいること、②北極と南極の氷の融解も回復不能となってきており、このまま進めば世界の海面が数メートル上昇すること、③数年内に世界の平均気温が1.5℃上昇して、大西洋の深層循環が停止し、アマゾンの熱帯雨林が大規模に死滅するなど、環境が激変し、人類や生物の日常に回復不能な影響を与えかねないとし、温室効果ガスの排出を2030年までに2010年比で半減させ、2050年までに「ネットゼロ」(CO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする)を達成する必要性をあらためて強調しました。



### 4 自民党新総裁に高市氏、公明党の政権離脱、自民・維新の連立と高市内閣誕生

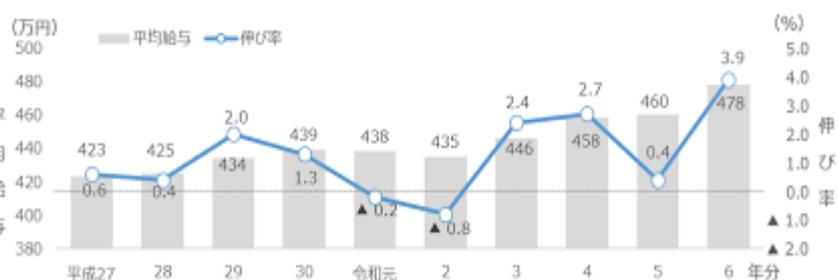


10月4日、自民党は総裁選挙を行い、新しい総裁に「安倍政治の継承」を掲げる改憲・タカ派の高市早苗前経済安全保障担当大臣を選出しました。10日、公明党の斉藤鉄夫代表は、自民党の高市早苗総裁と会談し、「政治と金」問題で意見の相違があるとして、自民党との連立政権から離脱する方針を表明しました。21日、臨時国会が開会し、首相指名選挙で、高市自民党総裁が首相に選出され、同日自民党と日本維新の会の連立政権が発足しました。自民と維新

の連立政権合意文書では、①開会中の臨時国会での衆議院議員定数の1割削減、②企業・団体献金の禁止と消費税減税の先送り、③憲法9条改正と緊急事態条項の追加、安保戦略3文書の前倒し改定などを明記しています。

## 5 2024年分の民間給与実態調査の結果

9月26日、国税庁は、2024年の「民間給与実態調査」の結果を公表しました。それによれば、民間の給与所得者は、6,077万人で、前年比9万人・0.2%の増加。年間の平均給与は478万円で、前年比3.9%の増加。その内、男性は587万円で前年比3.2%増、女性は333万円で前年比5.5%増。女性は男性の56.7%。正社員は545万円で前年比2.8%増、正社員以外は206万円で2.2%の増、正社員以外は正社員の37.8%に過ぎません。年収200万円以下のワーキングプアは964万人で全労働者の18.8%。その内、男性のワーキングプアは男性全体の10.1%ですが、女性のワーキングプアは全体女性の31.5%に及んでいます。



## 6 2024年の外国人技能実習生または特定技能外国人を使用する事業場に対する監督指導・送検等の状況

9月26日、厚生労働省は、全国の労働基準監督署が、2024年に外国人技能実習生または特定技能外国人を使用する事業場に対して行った監督指導（立入調査）や送検等の状況について発表しました。

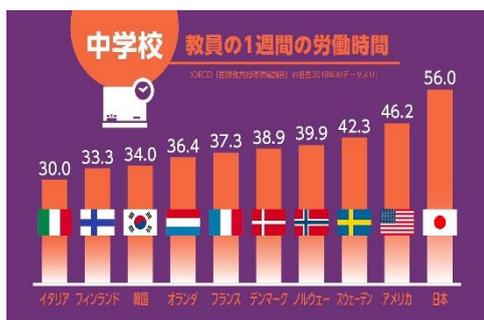
**【技能実習生関係】**労働基準関係の法令違反が認められた実習実施者は、監督指導を実施した11,355事業場の内、8,310事業場（73.2%）で、主な違反事項は①使用する機械等の安全基準25.0%、②割増賃金の支払い15.6%、③健康診断結果についての医師等からの意見聴取14.9%の順。重大・悪質な労働基準関係法令違反により送検したのは16件。



**【特定技能外国人関係】**労働基準関係の法令違反が認められた事業場は、監督指導を実施した5,750事業場の内、4,395事業場（76.4%）で、主な違反事項は①使用する機械等の安全基準24.0%、②割増賃金の支払い17.2%、③健康診断結果についての医師等からの意見聴取16.7%の順。重大・悪質な労働基準関係法令違反により送検したのは7件。

## 7 日本の教員、仕事時間最長；週当たりの各国の平均より10時間以上も長い！

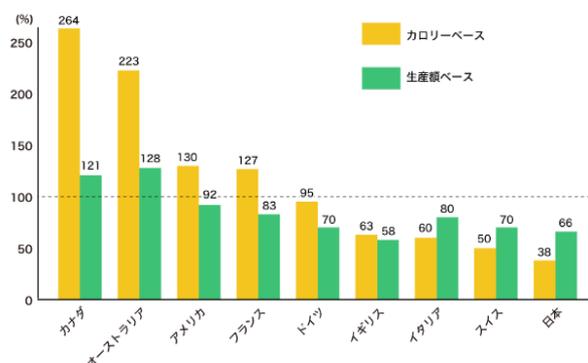
10月7日、OECD（経済協力開発機構）は、学校や教員に関する各国の状況を比較した「2024年国際教員指導環境調査」の結果を発表しました。それによれば、常勤教員の



仕事時間は、1週間当たり小学校で各国40.4時間に対し、日本が52.1時間、中学校で各国41.0時間、日本55.1時間となり、2018年の調査に引き続き最長となりました。各国平均を小学校で11.7時間、中学校で14.1時間上回っています。教員の不足を感じる校長の割合は、小学校で各国28.7%、日本40.7%、中学校で各国23.1%、日本35.7%となっています。

## 8 日本の食糧自給率、4年連続で38%

10月10日、農林水産省は、カロリーベースで2024年度の食料自給率（概算値）が38%になったと発表しました。38%は4年連続。政府は4月に閣議決定した「食料・農業・農村基本計画」で、「2030年度までに45%まで引き上げる」との目標を達成するには、一段のとりくみの強化が求められます。



### Ⅲ 今月のお勧めの4冊—「バカなフリして生きるのやめた」、「私のからだは私のもの」、「ハタチまでに知っておきたい性のこと(第3版)」、「ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門」

“読書の秋” = 3連休が多いこともあって読書量が増えます。11月は厚生労働省が定める「過労死等防止啓発月間」—過労死や過労自死をなくしていくには、長時間・過密労働の改善とハラスメントの一扫が不可欠であり、それにはジェンダー差別の根絶が前提かつ絶対条件。…ということで今月は、最近読んだ**ジェンダー問題を考えるのに最適な4冊**を紹介させていただきます。

1冊目は、**仁藤**にとう**夢乃**さん（一般社団法人 Colabo 代表）の「**バカなフリして生きるのやめた—10代から考える性差別・性暴力**」（新日本出版社、2025年6月初版、1600円+税）。本書の帯には、「最も考えてもらいたかったのは、買う側の存在とそこにある暴力について」とあり、



仁藤さんは、「はじめに」で「性搾取の実態と構造を見つめ、この社会に生きる私たち一人ひとりの責任に気づく人を増やしていきたい」と述べ、「おわりに」で「わたしや Colabo はこれからも、性加害を許さない社会、性搾取のない社会、女性の人権が尊重される社会の実現に向けて声をあげ続ける。性売買の構造を温存させようとする権力に抗し続ける。この本を手にとってくれたあなたも、その一員となってくれたらうれしい。」と訴えています。

す。

2冊目は、**平井美津子**さん（大阪府公立中学校教諭で、著書に「新装版『慰安婦』問題を子どもにどう教えるか」など）の「**私のからだは私のもの**」（高文研、2025年8月初版、2000円+税）。本の帯には、「私たちは性暴力被害者の声を聴いてきたのだろうか？ 一声を上げた性暴力被害者を追いつめるバッシング、性売買の歴史、『慰安婦』問題、沖縄における米兵の性暴力…人間の尊厳を踏みにじる暴力が生み出される構造をえぐり、共感と連帯がもたらす人権尊重の未来へのあゆみを語る。」とあります。平井さんの「長い『おわりに』」の「私たちの社会から性暴力がなくなってほしい。性暴力を軽視したり、なかったことにする社会であってほしくない。声を上げた人の声を聞き取る社会であってほしい。私のからだは私のもの、そう言える社会を作っていくために。」、「この本を、性暴力を受け、苦しんでいる人たちに、この言葉とともに届けたい—『あなたは悪くない!』」という言葉が心に響きます。



3冊目は、シリーズ「**大学生の学びをつくる**」の「**ハタチまでに知っておきたい性のこと・第3版**」（大月書店、



2025年3月初版、2200円+税）。本の表紙には、「こころとからだ、そして社会との関係…人間の性は、とって奥深くて、おもしろい」とあります。本の「まえがき」には、「性教育・性の学習を保障することは、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）=性と生殖に関する健康と権利の実現において不可欠」、「『包括的性教育を受ける権利』は、『性の権利』としての位置づけ」、「日本の性教育は国際的に見れば20年以上の遅れをとっており、その犠牲となっているのは子ども・若者たち」とあり、「あとがき」では、『科学』と『人権』にもとづいた包括的性教育を実施している諸国では、

…性の多様性を含むジェンダー平等社会実現のための法制化がいろいろな分野で進んでいます。」とあります。さいごに「本書が多くの場所で、活用され、少しでも、日本の子どもや若者たちの性的健康に貢献できれば望外の幸せ」と締めくくっています。

4冊目は、**川口かすみ**宮城学院女子大学一般教育部特任准教授の「**ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門**」（大月書店、2025年2月初版、2500円+税）。本書の帯には、「1冊で2つのことが学べる画期的なテキスト」とあります。15の章からなり、それぞれ「日本国憲法の概説」と「ジェンダー問題」について、コンパクトでわかりやすく解説されています。余計なことですが、アーモンドグリコの「1粒で2度美味しい」というコーナーを思い出しました。

